



自然研究路の再開について

箱根山火山防災協議会

1 大涌谷自然研究路とは

自然研究路は大涌谷の自然を観察するための自然公園施設で、大涌谷園地から噴煙地近くまでを周回する延長約700mの散策路。
かつては、日中に自由入場することができ、大涌谷の定番観光コースだったが、平成27年の火山活動活発化以降は、入場規制(閉鎖)が続いている。



観光客でにぎわっていた自然研究路(平成20年撮影)



現在は入場規制(閉鎖)

2 自然研究路再開に向けたこれまでの経過

自然研究路の再開に向けて、これまで専門家や関係機関の意見を聴取して、利用者の安全を最優先に、安全対策に取り組んできた。

- 平成27年5月 6日 箱根山の噴火警戒レベルが2に引き上げられたことに伴い、自然研究路を含む大涌谷園地が閉鎖
- 平成28年4月～ 自然研究路内のシェルターの設置等(ハード対策)に着手
- 平成28年7月26日 大涌谷園地の一部再開
自然研究路については、閉鎖を継続
- 令和元年5月 自然研究路内のシェルター7棟が完成
シェルターの整備を含むハード対策が完成
- 令和3年3月 自然研究路の入場を引率入場方式で行うことに決定(ソフト対策)
箱根山火山防災協議会にて、安全な再開方法として採択

3 自然研究路再開に向けた安全対策

自然研究路の再開に必要な安全対策をハード・ソフトの両面から実施した。



想定事象	ハード対策(施設整備等)	ソフト対策(避難体制の整備等)
噴石	<ul style="list-style-type: none">・シェルターの整備・避難経路標識の整備・ヘルメット等の配備	(引率入場方式による対策) <ul style="list-style-type: none">・監視員等による常時監視・入場受付時に火山ガスの影響を受けやすい方(高感受性者)でないこと等の確認
火山ガス	<ul style="list-style-type: none">・検知器の設置による24時間観測・大涌谷園地内に設置した検知器との連携	<ul style="list-style-type: none">・体調不良者への迅速な対応・火山現象等に対する注意喚起等
土石流	<ul style="list-style-type: none">・雨量計、伸縮計の設置による24時間観測	<ul style="list-style-type: none">・避難者の把握漏れを防ぐための参加者の把握・非常時の円滑な避難誘導體制の構築・確実な全員避難を行うための入場者リストの把握
総合	<ul style="list-style-type: none">・往路の復旧・緊急避難路の整備・監視カメラの設置	(その他) <ul style="list-style-type: none">・的確な避難誘導を行うための研修、訓練等・自然研究路管理の手引きの策定・大涌谷周辺の観光客等の避難誘導マニュアルの改定

ハード対策は、平成28年度～令和元年度にかけて整備を完了した。
ソフト対策は、令和2年度～3年度にかけて整備を完了した。

5 避難誘導訓練の実施

引率入場方式により自然研究路が再開していることを想定して、大涌谷におけるごく小規模な突発噴火を想定した避難誘導訓練を実施した。

避難誘導訓練における実施項目概要

- ① シェルターへの緊急避難
- ② 報告、ガス対策
- ③ 離脱指揮
- ④ 報告、応急 手当
- ⑤ 離脱指揮、地震対応
- ⑥ 離脱完了前 の連絡
- ⑦ 救出部隊(消防)の 誘導による 離脱



引率入場方式で実際に関わる人員を配置し、30人の一般観光客役を避難誘導して、安全対策の確認をした。

6 自然研究路の再開

平成27年5月6日に自然研究路が閉鎖されてから、約6年9ヶ月に渡る、ソフトハード面からの安全対策に係る取組みが完了した。

- シェルター整備等のハード対策
- 引率入場方式等のソフト対策
- 火山ガス安全対策専門部会を複数回開催して、専門的知見も踏まえながらの対策
- 自然研究路が再開したことを想定した、避難誘導訓練等



以上から、自然研究路再開の準備が整いました。

自然研究路の再開準備は整いましたが、
現在、本県がまん延防止等重点措置の対象区域
であることを踏まえ、

自然研究路再開は、

まん延防止等重点措置
(又は緊急事態宣言)
が終了後

にすることを提案いたします。